

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：男女共同参画推進費

## 事業名 イクメン・イクボス拡大事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 子ども・女性局 男女共同参画・女性の活躍推進課 男女共同参画係  
男女共同参画・女性の活躍支援センター

電話番号：058-214-6431

E-mail：[c11234@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11234@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 3,759 千円 (前年度予算額：3,446 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,446	1,434	0	0	0	0	0	0	2,012
要求額	3,759	1,759	0	0	0	0	0	0	2,000
決定額									

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・H27 国勢調査による岐阜県の女性管理職比率は、14.5%で全国 40 位と低く、女性が活躍できる環境づくりが十分であるとは言えない。
- ・県民意識調査の結果からも、家事・育児・介護のいずれについても、多くを女性が担っている結果となっている。
- ・この背景として、長時間労働などで男性が家事等に関わるのが難しい環境にある他、職場の無理解、「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識があると考えられる。
- ・こうしたことから、男性も女性も、職場や家庭で自分らしく活躍するためには、職場環境の改善と、経営者や管理職の意識改革が必要と考え、組織の成果を出しつつ従業員のワーク・ライフ・バランスを考えた経営者や管理職の拡大を図る必要がある。
- ・また、男性が主体的に家事、育児、介護等に参画するための意識改革講座を開催し、女性の負担を軽減し、女性が働きやすい環境を家庭内からも整える必要がある。

## (2) 事業内容

- ①イクメン・家事メン養成講座（2回） R2：898千円 → R3：1,071千円  
男性が主体的に家事、育児、介護等に参画するための意識改革となる講座を開催。
- ②イクボス養成講座 R2：2,085千円 → R3：1,766千円  
(1) イクボス養成講座（1回）  
(2) イクボス養成学習会（1回 → 0回）  
※養成講座・学習会を同時開催とし、2部構成での開催を検討
- ③企業等内研修 R2：784千円 → R3：785千円  
ワーク・ライフ・バランスの推進を図る企業等の要望を受け、企業の課題を解決するためにふさわしい研修テーマの決定や講師の派遣を行うことで、企業等の意識改革や働き方改革を推進する。  
・規模 10名以上/回の参加が必要  
・講師 エクセレント企業経営者・社会保険労務士等
- ④事務費 R2：577千円 → R3：137千円  
※①については、R2 イクメン・家事メン拡大促進事業費からの統合  
※②③④については、R2 イクボス拡大促進事業からの名称変更

## (3) 類似事業の有無

- ・ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた講座・セミナー・シンポジウム・イベントを実施している都道府県：44 都道府県

## 3 事業費の積算内訳(単位：千円)

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	442	講師謝金
旅費	177	費用弁償、業務旅費
需用費	42	消耗品費、会議費
役務費	30	通信運搬費
委託料	2,920	チラシ作成業務委託、託児業務委託等
使用料及び賃借料	148	会場借上料
合計	3,759	

## 決定額の考え方

## 4 各計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略  
→ 1 「清流の国ぎふ」を支える人づくり  
(2) 誰もが活躍できる社会
- 少子化対策基本計画 → 子育てを社会全体で支える意識を高めるための環境づくり、働きながら子育てしやすい環境づくり
- 女性の活躍推進計画 → 女性の活躍推進に向けた組織風土づくり、ワーク・ライフ・バランスの実現、働き方改革の推進に向けた整備環境

# 事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

岐阜県男女共同参画計画(第4次)

○男性の育児休業取得率 H30 6.2% → R5 13%

○「ワーク・ライフ・バランス」の認知度 H29 61.8% → R4 80%

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
男性の育児休業取得率	6.2% (H30)	-	-	6.3% (R1)	13% (R5)	48.5%
「ワーク・ライフ・バランス」の認知度	61.8% (H29)	-	-	61.8% (H29)	80% (R4)	77.3%

### (前年度の取組)

#### 事業の活動内容(会議の開催、研修の参加人数等)

(令和元年度実績)

家事メン養成講座 1回開催 49名参加

イクボス養成講座

①イクボス養成講座 1回開催 170名参加

②イクボス養成学習会 2回開催 延べ33名参加

企業等内研修 35回実施

### (前年度の成果)

#### 前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

(令和元年度事業成果)

家事メン講座の男性参加者からは「意識が変化した」、女性参加者からは「夫を家事に巻き込む方法を知った」と言う感想が寄せられ、男女共に意識の変化が見受けられた。

著名人による講座で、先進的な働き方改革を知り、ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業から、実際の取組事例を学び、同じ課題を持つ企業間で交流を行う事で、経営者等の意識改革につながる。

企業内で研修を実施することで、企業内の課題を共有し、働き方に対する意識改革が期待できる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>性別による固定的な役割分担意識は、企業・家庭共に根強くあることから、経営者等における働き方に対する意識改革、男性における育児・家事・介護等に参画するための意識改革を行う必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>・ 指標である「男性の育児休業取得率」が上昇傾向にある。 ・ ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業やワーク・ライフ・バランス推進企業の数が増加している。また、エクセレント企業の取組は、全国的にも評価されており、県内企業における取り組みも促進されている。</p> <p>H26：内閣府 特命担当大臣表彰 1社（アース・クリエイト・建設） 厚労省 イクメングランプリ 1社（アース・クリエイト・建設） H27：内閣府 内閣総理大臣表彰 1社（萩原北醫院・病院） H29：内閣府 特命担当大臣表彰 1社（足近保育園・保育）</p> <p>・ 企業経営者等、男性、女性、いづれの立場での講座参加者も、満足度が高く、意識の変化が見られる。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
<p>(評価) ○</p>	<p>・ これまで、別事業（別開催日）として行ってきた「イクボス養成講座」と「イクボス養成学習会」を、同日に行うことで、参加者の負担軽減・満足度アップ、事業経費の削減につなげている。</p>

### (今後の課題)

<p>事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 男性の育児休業取得率は目標値の15%に到達しておらず、引き続き、男性の意識啓発を行う必要がある。</li> <li>・ H27 国政調査による女性管理職比率も全国40位と低く、環境づくりに課題がある。</li> </ul>
--

### (次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>・ 経営者等、幅広い年齢層の男性に対して、働き方や家事・育児・介護等への参画に対する意識改革に効果的な、講座等を開催していく。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	

